

# 知事訪米の概要 (平成28年5月)

平成28年度  
沖縄県知事公室

—目次—

1	訪米概要	1
2	訪米日程	3
3	訪米団員名簿	4
4	活動の概要	
(1)	有識者会議	5
(2)	トム・コール下院議員面談	5
(3)	トム・エマー下院議員面談	6
(4)	ベティ・マッカラム下院議員面談	6
(5)	メイジー・ヒロノ上院議員面談	6
(6)	記者会見	7
(7)	タッド・コ克蘭上院議員面談	16
(8)	ロブ・ウィットマン下院議員面談	16
(9)	マデリーン・ボルダーロ下院議員面談	16
(10)	アラン・ローウェンタール下院議員面談	16
(11)	オースティン・スコット下院議員面談	17
(12)	マット・サーモン下院議員面談	17
(13)	スティーブ・イスラエル下院議員面談	18
(14)	シェリー・ムーア・キャピト上院議員面談	18
(15)	議員面談後の知事のぶら下がり取材対応	18
(16)	ウォルター・モンデール元副大統領面談	20

## 1 訪米概要

### (1) 目的

戦後71年を経た今もなお、国土面積約0.6パーセントの沖縄県に、米軍専用施設面積の74.48パーセントが存在し、沖縄には過重な負担が続いている。

知事が第6回世界のウチナーンチュ大会北米キャラバンで米国ワシントンD.C.を訪問するのに併せ、連邦議員等と面談し、辺野古新基地建設に反対する県民世論及びそれを踏まえた移設阻止に向けた知事の考え、さらには平成28年3月4日の国と県の和解及び工事中断の状況などの辺野古新基地建設阻止に向けた取組状況を伝え、米国側の理解と協力を促す。

### (2) 活動内容

#### ア 有識者会議 参加有識者8名

マイク望月教授（ジョージ・ワシントン大学）

マイケル・オハンロン上級研究員（ブルッキングス研究所）

ケント・カルダー教授（ライシャワー東アジア研究センター）

ラスト・デミング教授（ジョンズ・ホプキンス大学大学院）

ウィリアム・ブルックス教授（ジョンズ・ホプキンス大学大学院）

トーマス・ライク元在沖米国総領事

アル・オニール元在沖米国総領事

ニコラス・セチェイニ副部長（CSIS 日本部）

#### イ 連邦議会議員面談（計12名）

上院議員 3名

下院議員 9名（うち1名は補佐官対応）

#### ウ 記者会見

沖縄県ワシントンD.C.事務所において記者会見

#### エ モンデール元副大統領面談

沖縄コレクション公開セミナー（於：ジョージ・ワシントン大学）

### (3) 日程

平成28年5月16日（月）～5月19日（木）

※ 知事は第6回世界のウチナーンチュ大会北米キャラバンのため、平成28年5月9日（月）から米国及びカナダへ出張し、5月14日（土）にワシントンD.C.に到着している。

(4) 訪米団員（基地関係）

知事、知事秘書、通訳、基地防災統括監、知事公室職員

合計 6 名

## 2 訪米日程

日本時間			米国時間			便名
月日	曜日	時間	月日	曜日	時間	
【以下 米国東部標準時間(EST) 日本との時差 マイナス13時						
5月15日	日	9:59	5月14日	土	20:59	ワシントン ロナルド・レーガン空港着 UA624
			5月15日	日		ウチナーンチュ大会説明会等対応
5月16日	月	22:30	5月16日	月	9:30	佐々江大使面談
5月17日	火	0:30			11:30	有識者会議 (~13:00)
		2:30			13:30	トム・コール(Tom Cole)下院議員 面談
		3:00			14:00	トム・エマー(Tom Emmer)下院議員 面談
		4:30			15:30	ベティ・マツカラムBetty McCollum)下院議員 面談
		6:00			17:00	メイジー・ヒロノ(Mazie Hirono)上院議員 面談
		7:30			18:30	記者会見(沖縄県ワシントンD.C.事務所)
		22:30	5月17日	火		
		23:00			10:00	タッド・コ克蘭(Thad Cochran)上院議員 面談
5月18日	水	0:00			11:00	ロブ・ウィットマン(Rob Wittmann)下院議員 面談
		1:00			12:00	マデリーン・ボルダール口(Madeleine Z. Bordallo)下院議員 面談
		1:45			12:45	アラン・ローウェンタル(Alan Lowenthal)下院議員 面談
		2:30			13:30	オースティン・スコット(Austin Scott)下院議員 面談
		3:00			14:00	マット・サーモン(Matt Salmon)下院議員 ※採決対応のため急遽補佐官が面談対応
		3:45			14:45	スティーブ・イスラエル(Steve Israel)下院議員 面談
		4:30			15:30	シェリー・ムーア・キャピト(Shelley Moore-Capito)上院議員 面談
		6:00			17:00	Rayburn議員会館前ぶら下がり対応
		8:15			19:15	レーガン空港発
【以下 米国中部標準時間(CST) 日本との時差 マイナス14時						
5月19日	木	0:00	5月18日	水	10:00	モンデール元副大統領 面談
		2:47			12:47	ミネアポリス セントポール空港発
		4:20			14:20	シカゴ オヘア空港着(※)ターミナル1到着
		7:25			17:25	シカゴ オヘア空港発
5月19日	木	20:20				成田空港着

### 3 訪米団員名簿

No.	氏名 Name	職名 Position	備考
1	翁長 雄志 Takeshi Onaga	沖縄県知事 Governor	
2	池田 竹州 Takekuni Ikeda	沖縄県知事公室 基地防災統括監 Deputy Director General in charge of Military Base Affairs and Disaster Prevention	事務・総括
3	岸本 義一郎 Yoshiichiro Kishimoto	知事特別秘書 Governor's Secretary	知事秘書
4	運天 修 Osamu Unten	参事兼基地対策課長 Councilor and Director, Military Base Affairs Division	事務・広報
5	阿波連 貴夫 Takao Aharen	秘書課主査 Supervisor, Secretary Division	通訳
6	仲西 昌人 Masato Nakanishi	基地対策課主査 Supervisor, Military Base Affairs Division	記録・庶務

## 4 活動の概要

### (1) 有識者会議

ア 日時：平成28年5月16日 11:30頃～13:00頃

イ 場所：City Club Washington D.C.

ウ 参加した有識者：

マイク・モチヅキ教授（ジョージ・ワシントン大学）※モデレーター

マイケル・オハンロン上級研究員（ブルッキングス研究所）

ケント・カルダー教授（ライシャワー東アジア研究センター）

ラスト・デミング教授（ジョンズ・ホプキンス大学大学院）

ウィリアム・ブルックス教授（ジョンズ・ホプキンス大学大学院）

トーマス・ライク元在沖米国総領事

アル・オニール元在沖米国総領事

ニコラス・セチェイニ副部長（CSIS 日本部）

エ 概要：会議はマイク・モチヅキ教授が進行役を務め、冒頭、翁長知事から、平成27年10月の埋立承認取り消し、その後の日本政府と沖縄県の裁判及び和解、国地方係争処理委員会での陳述、そして辺野古新基地に反対する県民世論、それを踏まえた建設阻止に向けた知事の考えを説明した。

その後、有識者全員からそれぞれ辺野古新基地建設問題についての意見及び知事への質問をいただいた。

会議では、辺野古移設が進まなければ普天間を使用し続けることになるのではないかという懸念、あるいは辺野古移設が困難であるとの認識や唯一の解決策ということへの疑問、辺野古以外の代替案につながるような発言などがあった。

### (2) トム・コール下院議員面談

ア 日時：平成28年5月16日 13:30頃～

イ 場所：レイバーン議員会館 コール議員居室

ウ 面談者：トム・コール下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

トム・コール議員からは、連携して、沖縄にとってよりよい解決策を見出すお手伝いできればと思う、1960年代のフランスや1990年代のフィリピンがそうであったように、日本政府が要請すれば変更の可能性がある、私の立場でできることは、日本政府が解決策を出して来ればそれを尊重するように私の政府に対して働きかけることだが、沖縄にとって平等な解決策が出てくることを期待したいといった主旨の発言があった。

(3) トム・エマー下院議員面談

ア 日時：平成28年5月16日 14:00頃～

イ 場所：キャノン議員会館 エマー議員居室

ウ 面談者：トム・エマー下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

トム・エマー議員から、知事のおっしゃったことの背景を調べてみたい、この問題が沖縄の人にとって重要であるということを理解した、工事の状況を見守りたい、環境の問題もあることを認識したといった主旨の発言があった。

(4) ベティ・マッカラム下院議員面談

ア 日時：平成28年5月16日 15:30頃～

イ 場所：レイバーン議員会館 マッカラム議員居室

ウ 面談者：ベティ・マッカラム下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

※ 具体的発言内容については非公表

(5) メイジー・ヒロノ上院議員面談

ア 日時：平成28年5月16日 15:30頃～

イ 場所：ハート議員会館 ヒロノ議員居室



ウ 面談者：メイジー・ヒロノ下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがこのまま進めることは困難であることなどを説明した。

※ 具体的発言内容については非公表

## (6) 記者会見

ア 日時：平成28年5月16日 18:30頃～

イ 場所：沖縄県ワシントンD.C.事務所

エ 概要：

(記者)

幹事社です。本日、(有識者会議及び)下院議員上院議員と面会されていらっしゃると思いますが、その内容について、お話しいただける範囲で

(翁長知事)

11時半、少し遅れましたけれども、有識者会議をやって、そのメンバーの名前は皆さん方にもお配りされていると思います。8名の皆さん方と意見交換をしました。

マイク望月教授が司会役をして、それぞれの方から意見をいただいたような形。内容についてみんながまとめたものを読んでから後で補足があればやりたいと思います。

ワシントンを代表する安全保障、日米関係の専門家が集まり出席者全員から質問や発言をいただき、大変有意義な会議でありました。私からは日本政府との和解、係争処理員会での陳述、そして辺野古新基地に反対する県民世論、それを踏まえた建設阻止に向けた私の考えを説明させていただきました。会議では辺野古移設が困難であることの認識や唯一の解決策ということへの疑問、そして辺野古以外への代替案につながる発言等もありました。

こういうことがまとめとしてのことになるわけですが、どのようなやり方であったということを申し上げますと、マイク望月教授が司会をして一人一人順序よく発言を求めました。そして、それぞれがこのことに対しての意見を言って、そして私に一つずつ質問がございました。その一つずつの質問には、私の方がさっきの総括の中で話したような形で話をさせてもらっています。以上が有識者会議の状況です。

下院議員上院議員との面談について、一番最初のトム・コール下院議員とも、大変よい議論ができたと思っています。相手の発言は了解を得たところは説明しますが、了解を得られなかったところは、この人ということではなくて、議員で了解しなかつ

た人もいますので、出来ない場合もありますけども、この方は私の発言はいいですよということでしたので、申し上げます。

連携して、沖縄にとってよりよい解決策を見出すお手伝いができればと思う。1960年代のフランスや1990年代のフィリピンがそうであったように、日本政府が要請すれば変更の可能性がある。私の立場でできることは、日本政府が解決策を出して来れば、それを尊重するように私の政府に対して働きかけることだが、沖縄にとって平等な解決策が出てくることを期待したい。これは、トム・コール下院議員の概要でした。そのまま読んで続けて良いですか。

2番目のトム・エマー下院議員は、知事のおっしゃったことの背景を調べてみたい。この問題が沖縄の人にとって重要であるということを理解した。工事の状況を見守りたい。環境の問題もあることを認識した。これが、2番目のトム・エマー下院議員の要約です。

それから、3番目の女性の下院議員ですが、ベティ・マッカラム下院議員。この方は、会談内容は控えるということで向こうからの申し出がありましたので、政治的な面はお話できませんが、終わり際に、お互いのラフな話になりまして、2、3分のことですけれども、孫はかわいいよねというような具合の話し合いもさせてもらいました。それから冒頭では向こうの方から聞いた話で、マッカラム下院議員の息子さんが5年前の3.11でボランティアとして活躍したという話がありましたので、それに大変敬意を表して、中身に入っていったということがございます。その中身については、本人の了解が得られませんでしたので、ここで話すことはできません。

それから、メイジー・ヒロノ上院議員、この方も会談内容の公表は控えるということでお会いいたしました。雰囲気としては、非常によい会談でありました。

以上が、要約としての今日の話し合いの内容であります。

(記者)

今、アメリカでは大統領選挙が行われております。大統領の候補者。共和党一人である、ドナルド・トランプさんという人は日本政府がお金を十分に払わなければ、在日米軍を撤退させるべきだということを主張しているんですけども、今日の一連の会談でトランプさんをめぐる話し合いがあったかということが1点と、トランプさんの主張について知事はどう思われているのかという2点を教えてください。

(翁長知事)

どなたとは言っていませんが、8名の有識者会議ではトランプさんの大統領選挙の結果等々でどうなるかわからないという話を、一人が話をされておりました。それについてまた、日本の安全保障との関係でトランプさんが発言したことについての意見

はありませんでした。

(記者)

知事ご自身はトランプさんの一連の発言をどのようにとらえていらっしゃいますか。

(翁長知事)

今はこの概要の中身の点検で話をしてもらいたい。私の意見を聞き始めると、今度は全部私の意見の会見になりますので、今報告をした内容で全部やっていただきたい。

(記者)

本日午後の議員さん方の面談を通して本日の知事の総括というのを改めてお伺いしたい。

(翁長知事)

去年も、何名でしたか、上院、下院議員にお会いして、あの時は、間違い無く日本政府の方から、いろいろアタックもあったような感じで、辺野古唯一と、日米合意が全てと、言うようなことの中に、知事の話聞いて、理解できる場所もあったと。今日は初めて聞く話もあって、有意義でしたというのも入るんですが、結果的には、日米合意が全てで、辺野古が唯一だという国の方針は変えられないだろうというのが、割合ベースとしてあったのですが、今回の場合は、先ほど申し上げたように、トム・コール下院議員やトム・エマー下院議員もですね、それぞれが。例えば、トム・コール下院議員だったら、沖縄にとって平等な解決策が出てくることを期待したいとか、トム・エマーさんは、環境の問題もあることも認識したというようなことでありますので、その意味からいうと、一定程度、情報がですね、こちらの方のものも正確に伝わってきているのかなと、というような感じは、まだ、4名の議員との会話ですけど、感じるころはありました。

(記者)

今回の訪米でですね、政府関係者の方と会われる予定はおありでしょうか。

(翁長知事)

今回は、第6回世界のウチナーンチュ大会の、いわゆるキャンペーンのことが一番の主でありました。しかし、アメリカ本国行くからには、いわゆるそういった機会を

捉えてのものは必要だろうというようなことで、ワシントン駐在のメンバーをお願いをしましたところ、このような形で。去年も上院下院に5～6名くらいだったと思うんですけども、今回12名ということですね、そういったこともやりましたし、それから、モンデール元副大統領ともお会いをできるようになりました。そういうことで、今回はある意味で、予算との関係でいうと、訪米の予算は2月定例会でも了解を得ているわけですが、議会の。そういったもの等というよりも、世界のウチナーンチュ大会の出席の中でですね、ワシントンDCの県人会とも会いますから、その合間を縫ってということもありましたらから、今回は、皆さん方にお配りしている内容ですね、今までの経緯の説明をし、あるいは意見交換会をしたということですね。

(記者)

先ほど、知事、あの、一定程度ですね、情報が正確に伝わっている感じがしたとおっしゃいましたが、具体的に米側にですね、どのような県の訴えたのか、情報というのが伝わって、一定程度、理解が広がりつつあるとお考えですか。

(翁長知事)

これはもう、本人たちが発言のことは詳しくいうなということなので、大変私からも言いにくい話でありますけれども、いわゆるこれまでの経緯で、極端な話をしますと、やはり安倍さんが「急がばまわれ」といったことなどは、やっぱり受け止め方としてはいろいろあったと思いますね。だからそういったもの等を考えると、今までの1年間、例えば、私が去年の今頃いった時には、「この工事は難しいですよ。」と。「なかなか前に進みませんよ。」といったけれど、誰もなかなか信用しなかったんですが、今は、1年間経過して、去年の8月の1ヶ月間の中止と、それから、10月13日に取消をして以降、ほとんど工事らしい工事をしないまま、年を越して、そして、3月4日の和解にいったわけですから、ほぼ1年近く工事が止まったということになります。その工事が止まったという状況は、ご存じの方もいましたので、その意味で意識が進んでいるのかなというものは感じるどころがあります。

(記者)

すみません、関連で、米議会の方では、アメリカの議会の方では、辺野古の工事が進んでいないということで、普天間移設が終わってからグアムへ移転すると、そういう順番での説明をアメリカの軍の高官はしているんですけども、そうなるグアム移転でも遅れるかと思うんですが、そういったことについて、今日、議会の関係者とはお話しされたのでしょうか。

(翁長知事)

グアム移転の話はなかったです。

(記者)

知事、認識は広まっているということなんですけれども。

(翁長知事)

僕の感触ですよ。

(記者)

和解ということによって、事実上、工事が止まっているということですね、アメリカ側が普天間移設計画について、実現性可能な案ではないんじゃないかというような、そういった疑問を持たれているような雰囲気は、今回、連邦議員の皆さんに会ったときに感じられたのかというのを1点と、あと、有識者会議を今日開いたんですけども、そこで何か一致する点とかですね、今後、次回を会合を開くとか、有識者会議で何か報告書を作ったりですね、そういった普天間飛行場の解決策を探る、何かそういう提案みたいなものを有識者と作っていくのかとか、そういったものを、次につながる動きみたいなものがあれば、聞かせてください。

(翁長知事)

和解の勧告という意味で、裁判所の方で、説明は私の方からしております。ですから、向こうから聞かれる前に私の方で説明をしておりますので、故に、一年間近く、実質的に工事はできませんでしたよと。私の説明ですよ。私の説明で、そういうことで実質上、ある意味では1年以上、最高裁の判決がいつでるか分かりませんが、1年以上は間違い無く工事が止まるということが、去年の5月、6月で考えられたでしょうかと。安倍政権の今日までの、ある意味で僕らからすると強引に進めているようなですね、ものがこういう形であられるということ自体、私は「急がばまわれ」ということについてね、オバマさんが懸念を示したというようなこともありましたので、この辺のところは、今、思っているところがあるんじゃないでしょうかねと、というような説明はさせてもらっております。それから、有識者会議の内容で何かあったかという話なんですけど、冒頭でマイク望月さんが、それぞれが自分の考え方を自分はこういったよと皆さん方に話しても良いけど、あの人がこういったよということは言わないようにしましょうねと、そうでないと、自由な議論ができないので、そこのところは守ってくださいといったら、皆さんそうだとおっしゃったので、ですから、誰がどのようなお話しをしたかというようなことは私の方からもいえない。概略的にいう

と、それぞれ持ち味があるような意見が聞けましたけれど、その内容については、オフレコということですので、私の方からは説明することはできない。良い会談だったというふうには思っています。

(記者)

何か有識者会議の中で、一致する点というかですね、確認しあうような点などは。

(翁長知事)

8名いますから、あのお二人は一緒だったね、この3名ぐらいは似通っていたねというような印象はありますけれども、それを統一して説明することは困難ですね。

(記者)

知事、すみません。明後日、モンデール元駐日大使と会談されますが、このタイミングでモンデールさんと会談する狙い、意義というものを教えてもらえますでしょうか。

(翁長知事)

やはり、橋本、モンデール会談で、20年前にね、この普天間の返還がスタートしたわけですから、それから以降の20年間、紆余曲折がありましたし、その原点である、20年前の出来事等も、皆様方の取材等の中で、それぞれのメディアのものを私たちも読ませてもらったり、見させてもらったりして思うところがありますから、今、モンデールさんがどういうお考えを持っているのか、20年前の思いと、今、そういった経過等を見ながら、どのように考えているかというようなことも、これから私たちが良い形で解決策を見いだす時の参考になるのではないかというようなことでお会いをするつもりであります。

(記者)

知事、アメリカ政府の当局者とはアポが入らないというのは、知事、どういうふう  
に受け取ってらっしゃるのでしょうか。

(翁長知事)

入らなかったかどうかというのは、分からない、僕は、ここに来るまで上院下院議員も何名会えるかわからないと。4名かもしれないし、12名かもしれないという話は、させてもらったので。ここに来るまで、内容等はですね、確定しているものではなかったの、まあそういう意味から言うと、今言うようなものでは、説明がしに

くいということです。

(記者)

有識者との懇談では、一人一人どういう意見だったか言えないとのことでしたが、知事の感触として、知事の主張の理解が深まったという風を感じられたのか。それとも、結構厳しい意見が多かったのか。

(翁長知事)

これについても、言いにくい部分がありますよね。なぜかというと、真ん中が中立だったとすると、そこから5ぐらい離れるのか20ぐらい離れるのかをね、どのように評価するのかなどというのは難しい話ですので。その意味から言うと、私から、傾向的な話をするのは難しい。

(記者)

確認なんですけれども、明日も議員を回られるということで、政府関係者に会うよりも議員の関係者により多く会うという、その意義というのは、どういった意義があるのでしょうか。

(翁長知事)

意義というのはどっちも意義があって、去年来たときも、国務省、それから国防省の日本部長にお話をして、ある意味では、一番向こうで力を入れて話しをしたら、一番表面上は理解をしておった2人が、1時間後には、辺野古唯一という紙をだしてね、すぐ反応したというようなことを考えますと、なかなか行政というのは簡単じゃないのかなというようなものは思いますが、議員はわりあい、この4名もそれぞれ違うように、大変柔軟で、少し縛られないなかでの、自分の見通し、考え方、というものは話をしてくれるし、それから、議会に働き掛けるというようなことも、わりあい、気軽にという言葉はあわないと思いますが、言えるというような部分もありますから、世論形成みたいなものは、議会は重要ではないかなという感じはしますね。

(記者)

目標というのは、今回の議員回りの中で、知事の思いというのは達成できたという風に判断していますか。

(翁長知事)

私の思いといいますか、まあ30分ですので、いつも来たとき思いますが、15分間は

通訳ですから、その意味からいうと、15分で何が話ができるかというようなことはですね、大変頭の中でぐるぐるぐるぐる回るところです。A議員B議員C議員、特徴があったりして、法律論争に主眼を置く人もいますしね、私がちょっと説明をし始めると、法律の細かいところ、日本の裁判ってどうなっているのがありますから、そういったようなことで、各議員別々なんで、そしてそれを15分で説明するという、環境問題も、そういったこと等も含めて、例えば環境に精通しているというような説明を受けた人には、環境問題の話をするとかですね、そういった工夫はしていますから、だれがどういう反応ということもなかなか言いにくい部分があります。

(記者)

今年度内の再度訪米ということも念頭においていると思いますが、効果的な時期というのを今後見定めていくと思いますが、いつ頃、どういう環境が調ったときが、訪米の次回の時期という風になるのか。

(翁長知事)

今は、去年の、なんと申しますかね、就任してからの取り消しに至るまでの流れ、これはもう大変な、激動の一日一日でしたね。それが終わって、今度は法廷闘争という、今度はやはり緊張感と言いますか、裁判で決着がどうなるかというようなもの、それから、法律を勉強して、陳述の尋問などに答えたりするというようなこともありました。和解が成立しまして、これから以降、円満に話し合いをなさいよというようなこともあったんですが、3日後にはすぐ、あるいは、和解のその日に、安倍総理が辺野古唯一という言葉を使って、ある意味で円満に会談しなさいよということが、冒頭でなんか崩れたような感じがしてですね、その後、いくらか、沖縄懇談会ですか、等々で1、2回はお会いをしましたが、中身まで入っていません。ですから、これから以降は、国・県係争処理委員会、あるいは、それを受けての、高裁、最高裁と、この時期というのを見定めるのも難しいですので、それなんかと連動して、こちらに来るか来ないかなどというのは、今、予断をもってですね、見通しが話せる状況ではないと。ただし、やっぱり、しっかりした、しかるべきだと自分が思ったところで、このへんのところも考えていきたいなと思っております。

(記者)

事実関係だけ確認したいのですが、和解について県側の考えをお伝えしたということですが、知事は県議会で、埋め立ての撤回も視野に入れているとかですね・・・

(翁長知事)



視野に入れているのではない。可能。

(記者)

可能だということと、あと、知事の持っている設計変更の知事権限といったものに対して、きちっと見ていくというような発言をされているのですが、和解で最高裁まで進んで、裁判だけの過程じゃなくて、その以後も県としてはいろんな・・・

(翁長知事)

最高裁ができるまでは工事は止まっていますのでね、その意味では、設計変更とか変更届というのはなかなか言いにくいと思います。

(記者)

その先のことについても、今回、連邦議員のみなさんに、説明というかですね、沖縄県としては阻止に向けてこういう対応を取っていきますという説明を知事の方からされたのでしょうか。

(翁長知事)

こういう話じゃないんですけど、先ほどいったように、法律の撤回とかどうのこの、それは可能ですよということを議会で話したら、2、3のメディアは、撤回も辞さない、やるんだという話で書かれたりするんで、大変真意が伝わりにくいところがあるのですが、純粹に法律の解釈としては、そういった撤回とか、変更届みたいなものまでは否定してませんよと。この1件が、いわゆる今回の裁判の経緯になってますよという話をさせていただいたので、必ず撤回するとか、必ず変更取り消しをするとか、ということではありません。

(記者)

それをアメリカの議員に説明はしていないのか。

(翁長知事)

ここまでは、15分ではなかなか。私に2時間、みんないっしょになして講演させてくれたら、そこまで話ができるかもしれませんが、それぞれ15分間、まず、8割方はおんなじ話ですからね、その議員の個性で2割ぐらいが違ってきますので、そういったことで、今回4名は話ができたとのことですね。

(7) タッド・コ克蘭上院議員面談

- ア 日時：平成28年 5月17日 10:00頃～
- イ 場所：ダークセン議員会館 コ克蘭議員居室
- ウ 面談者：タッド・コ克蘭上院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがこのまま進めることは困難であることなどを説明した。
- コ克蘭議員から、米政府が知事や沖縄の声を聞くために、特使を送り解決策を話し合うようなことをしているかとの質問があった。
- 質問に対して翁長知事からは、日米両政府は辺野古が唯一と繰り返すのみです。米国から沖縄の声を直接聞く取り組みがあればありがたいとお話しました。

(8) ロブ・ウィットマン下院議員面談

- ア 日時：平成28年 5月17日 11:00頃～
- イ 場所：レイバーン議員会館 ウィットマン議員居室
- ウ 面談者：ロブ・ウィットマン下院議員及びスタッフ
- エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがこのまま進めることは困難であることなどを説明した。
- ウィットマン議員から、グアム移転と嘉手納以南の土地の返還については、実行されるとの認識を持っていること、辺野古については、沖縄県と日本政府の動向を注視したいとの主旨の発言があった。

(9) マデリーン・ボルダーク下院議員面談

- ア 日時：平成28年 5月17日 11:30頃～
- イ 場所：レイバーン議員会館 ボルダーク議員居室
- ウ 面談者：マデリーン・ボルダーク下院議員
- エ 概要：事前の面談予定はなかったが、挨拶する時間をいただいた。

(10) アラン・ローウェンタール下院議員面談

- ア 日時：平成28年 5月17日 12:45頃～

イ 場所：キャノン議員会館 ローウエンタール議員居室  
ウ 面談者：アラン・ローウエンタール下院議員及びスタッフ  
エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

ローウエンタール議員から、沖縄に基地が集中しているという懸念も分かる、環境面の懸念があることも分かったとの主旨の発言があった。

(11) オースティン・スコット下院議員面談

ア 日時：平成28年5月17日 13:30頃～  
イ 場所：レイバーン議員会館 スコット議員居室  
ウ 面談者：オースティン・スコット下院議員及びスタッフ  
エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

スコット議員から、知事が新たな基地へ反対していることは分かった、どこへもっていけばいいのか、もっと小さければいいのかとの質問があった。また、日米の2国間関係は重要なので、人々の意見は尊重したいとの主旨の発言があった。

(12) マット・サーモン下院議員面談

ア 日時：平成28年5月17日 14:00頃～  
イ 場所：レイバーン議員会館 サーモン議員居室  
ウ 面談者：マット・サーモン下院議員は議会の採決対応のため、補佐官の対応となった。  
エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがそのまま進めることは困難であることなどを説明した。

(13) スティーブ・イスラエル下院議員面談

ア 日時：平成28年5月17日 14:45頃～

イ 場所：レイバーン議員会館 イスラエル議員居室

ウ 面談者：スティーブ・イスラエル下院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがこのまま進めることは困難であることなどを説明した。

イスラエル議員から、基地の将来についての日米間の協議から、沖縄は疎外されているのかとの質問があった。

(14) シェリー・ムーア・キャピト上院議員面談

ア 日時：平成28年5月17日 15:30頃～

イ 場所：ラッセル議員会館 キャピト議員居室

ウ 面談者：シェリー・ムーア・キャピト上院議員及びスタッフ

エ 概要：翁長知事から、沖縄の過重な基地負担の状況、沖縄の基地建設の歴史的経緯、辺野古新基地建設について埋立承認取り消し、裁判、和解などによって工事が中止されている状況、環境の面からの問題点、日本政府は辺野古が唯一の解決策としているがこのまま進めることは困難であることなどを説明した。

キャピト議員から、知事からお話しを聞いたので助けになった、多くの人たちに知事のジレンマなどを話していくことは、このことを理解する助けになると思うとの主旨の発言があった。

(15) 議員面談後の知事のぶら下がり取材対応

ア 日時：平成28年5月17日

イ 場所：レイバーン議員会館前

(翁長知事)

私の方でご報告をして、その後質疑を受けたいと思いますのでよろしくお願ひします。昨日、今日の全体の訪問できたのが、昨日、上院1人と下院3人の4名、今日は上院2人に下院6人の8名でそのうち1人は補佐官対応でした。合計で上院3人、下院9人の計12人とお会いをしております。昨年は上院5人、下院3人、計8人でした。一応、今日の数をですね、一人欠席の人もいましたので、報告をしておき

ます。

それでは、順序よくお会いをした中で、発言内容の要約と申しますか、それを報告させていただきたいと思っております。

一番最初のタッド・コ克蘭上院議員、これはコ克蘭議員から、米政府が知事や沖縄の声を聴くために、特使を送り解決策を話し合うようなことをしているかという質問がありました。私からは、日米両政府は辺野古が唯一とくりかえすのみです。米国から沖縄の声を直接聞く取り組みがあれば、ありがたいとお話しをしました。これが、やりとりをした中でひとつであります。

それから、2番目のロブ・ウィットマン下院議員は、グアム移転と嘉手納以南の土地の返還については、実行されるとの認識を持っているとの話です。辺野古については、沖縄県と日本政府の動向を注視したいということでした。

次のアラン・ローウェンタール下院議員は、沖縄に集中しているという懸念もわかる。環境面の懸念があることも分かったという話をしておりました。

それから、オースティン・スコット下院議員は、新たな基地へ反対していることは分かった。どこへもっていけばいいのか。もっと小さければいいのか、との質問がありました。日米の2国間関係は重要なので、人々の意見は尊重したいとの話がありました。

次のマット・サーモン下院議員は、議員本人は採決対応のため、急遽補佐官が対応したので、このマット・サーモンさんが補佐官が代理で対応してもらいました。

次にスティーブ・イスラエル下院議員、この方は基地の将来についての日米間の協議から疎外されているのかとの質問をいただいたところで時間切れとなりました。

次のシェリー・ムーア・キャピト上院議員は、知事からお話しを聞いたので助けになった、多くの人たちに知事のジレンマなどを話していくことは、沖縄を理解する助けになると思うということでありました。

そして、これはオブザーバーと言ったらなんですが、グアムから出てきているマデリーン・ボルダークと縁がありまして、部屋を訪問しましたら、大変歓待をされまして、時間は3、4分かもしれませんが、写真を撮ったりですね、沖縄ということでグアムとの関係がありますので、向こうもその関係についての意味あいについて何の話も無かったんですが、沖縄から来て、またもう一回来るのかとかというような話をし、この人との話は終わりました。

一応、これが要点であります。中にはもう少し話した人もありますが、これはオフレコでということもありましたので、これは、またここでは申し上げられません。その中で、去年と比較をしての話であります。去年は私の印象では、皆さん方の報道等でもそうだったと思っておりますが、去年は私の印象では、皆さん方の報道等でもそうだったと思っておりますが、日米合意が大変大事であると、ですから辺野古唯一であるというようなことがある意味でほとんどでありましたけれども、今回

はその発言は直接的にはございませんでした。ですからある意味で沖縄の、表現はそれぞれ違うもんですからあれですけども、沖縄県の苦悩も分かると思いますか、厳しさも分かる、そして日米安保体制の大切さも分かる、なんとかそれは両立できないのかねと、沖縄には同情していますよというような話で、去年よりは、ほとんどの方が最低これくらいの話はされたもんですから、ある意味で認識が深くなったのかなという感じがしております。

次に言うのは私の推測なんですけど、去年のいろいろ話をした中から一年間経って、一番大きなインパクトがあったのは、やっぱり工事がストップしたというのはですね大きなインパクトがあったかなと思っております。それから、やっぱりオバマさんが、安倍さんがオバマさんに会って急がば回れと言ったようなことも、やはり意味合いとしては、それぞれニュアンスが違うんで統一は言えませんが、やっぱり一つのインパクトがあったというような感じがしました。

一応、今日、具体的にあった中身と私の印象という話をさせてもらいましたので、後はよろしくをお願いします。

(記者)

知事、今日お会いされた中でですね、辺野古の今の現行計画案に対して実行不可能だとか先行きについて不透明感とか懸念とかを示される議員というのは実際いなかったですか。

(翁長知事)

その議員の言葉からそういう話があった訳ではありませんが、私の方では、そういうことはもう実行できないというふうに思っていますと言った時に、私の意見としては分かったというようなことはありましたけども、積極的にその方からそれはもう実行不可能だねというようなことではなかったです。

#### (16) ウォルター・モンデール元副大統領面談

ア 日時：平成28年5月18日 10:00頃～

イ 場所：ミネアポリス モンデール元副大統領事務所

ウ 面談者：ウォルター・モンデール元副大統領及びスタッフ

エ 概要：モンデール元副大統領は暖かく出迎えていただくとともに、面談時間も予定を大幅に超過して時間を取っていただき、真摯に対応していただいた。

翁長知事からは、1996年のモンデール駐日大使と橋本首相の会談で普天間飛行場の返還が合意された功績について賛意を表した上で、その後の、紆余曲折して今日まで解決が見えてこないこの問題の推移と、現在の沖縄

の現状について説明した。